

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	松村 雄樹	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
自らの関心をもとに運動やスポーツに関わる問題や課題がどこにあるのかを考え、その問題や課題に取り組む。卒業論文作成に向けて準備を進める。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	対面による発表やディスカッションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	卒業論文作成に向けての流れを理解する	☐
第2回	卒論に向けて：研究とは	研究とは何か、研究倫理、卒業論文の構成・書き方について理解する	☐
第3回	卒論に向けて：研究デザインとは	リサーチクエスションの設定、仮説の設定、研究手法について理解する	☐
第4回	卒論に向けて：テーマの決定	各自が興味関心のあるテーマについて検討する	☐
第5回	卒論に向けて：先行研究の調査①	各自のテーマに基づいた先行研究の調査を行う	☐
第6回	卒論に向けて：先行研究の調査②	各自のテーマに基づいた先行研究の調査を行う	☐
第7回	卒論に向けて：先行研究の調査報告準備	先行研究調査報告のプレゼンテーション資料作成	☐
第8回	卒論に向けて：先行研究の調査報告①	各自のテーマに基づいた先行研究をまとめ、先行研究と自分の研究との関係、研究目的をプレゼンする	☐
第9回	卒論に向けて：先行研究の調査報告②	各自のテーマに基づいた先行研究をまとめ、先行研究と自分の研究との関係、研究目的をプレゼンする	☐
第10回	生涯スポーツイベント運営実習：マスタース甲子園	生涯スポーツイベントの運営ボランティアに参加する	☐
第11回	卒論に向けて：目的に合致した研究方法の検討①	各自の研究目的に基づいた適切な研究方法について検討する	☐
第12回	卒論に向けて：目的に合致した研究方法の検討②	各自の研究目的に基づいた適切な研究方法について検討する	☐
第13回	卒論に向けて：研究方法の報告準備	研究方法報告のプレゼンテーション資料作成	☐
第14回	最終発表会に参加する	4年生の卒業論文の最終発表を聞く	☐
第15回	卒業論文作成に向けた研究方法報告	卒業論文のテーマ、目的、方法などについてまとめる	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
先行研究の内容を理解する（毎週2時間程度） 卒業論文作成に向けて、内容を積み重ねる（毎週1時間程度） プレゼンテーションの資料や報告のための資料を作成する（毎週1時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
定期的にプレゼンを行い、全員でピアレビューを行う

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	社会とスポーツに関わる課題について問題意識を持ち、解決方法を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 授業内試験：報告会での資料、ディスカッションへの参加態度その他：レポートの完成度				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	論文・レポートの基本石黒圭 日本実業出版社	978-4-534-04927-8
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	新版 論文の教室 レポートから卒論まで戸田山和久 NHKブックス	978-4-14-091194-5
2		
3		
4		
5		